

平成24年度の委員会運営方法について（案）

1 調査・研究内容

観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくりについて

（本件について調査・研究を行う理由）

本市では、観光・MICE・創造都市の推進について、横浜市中期4か年計画の中で新たな成長分野としてとらえ、「観光・創造都市戦略」を横浜版成長戦略の一つに据えて、重点的な取り組みを行っている。

議会においても、特別委員会で本件に関わる提言がなされてきたところであるが、国内外の都市間競争が激化する中、本市が「観光・創造都市戦略」を着実に進め、国際都市横浜として都市の魅力を高めていくためには、より具体的で、実効性の高い施策を推進していく必要があると考える。

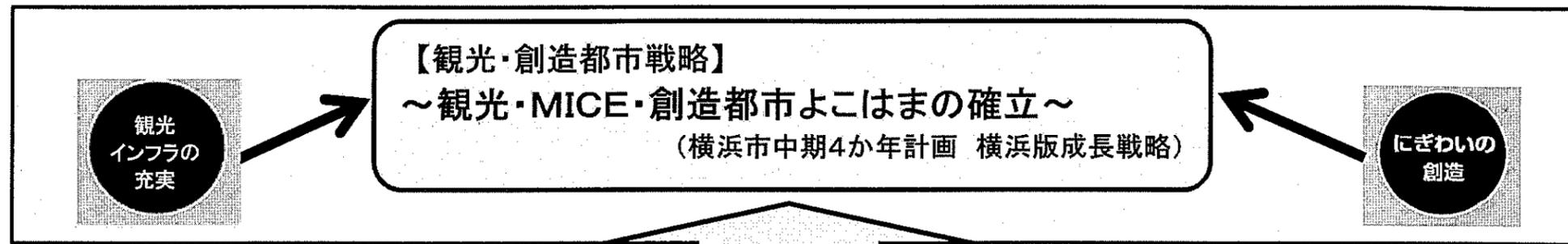
今年度の本委員会では、過去の特別委員会における提言も踏まえながら、現地視察や専門家からの意見聴取などを行い、「観光・MICE・創造都市よこはま」を早期に確立させるために必要な、横浜の魅力づくりについて、具体的な施策等の調査・研究を行う。

（今年度の最終目標）

調査・研究の結果については、本委員会の提言として議長あてに報告を行う。

観光・創造都市戦略における国際都市横浜の魅力づくりについて

観光・創造都市・国際戦略特別委員会資料
平成24年9月21日(金)



今だからこそ横浜に戦略が必要

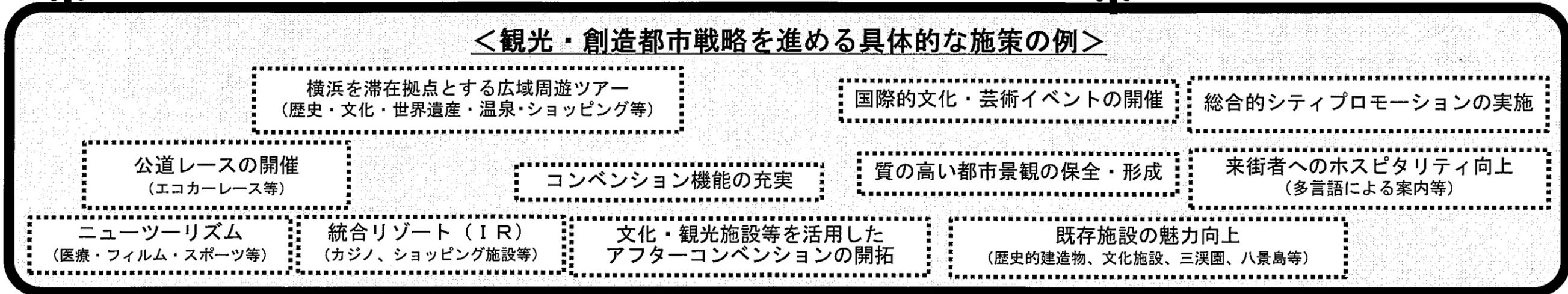
＜求められる都市の自立＞

- 地方分権、地域主権改革の推進
- 新たな大都市制度（特別自治市）の創設に向けた動き

＜国際都市間競争の生き残り戦略＞

- 羽田空港の国際化
- 「環境未来都市」「国際戦略総合特区」「特定都市再生緊急整備地域」の指定
- 国際コンテナ戦略港湾の活用等

「国際都市横浜」としての魅力向上、都市ブランドの確立、横浜経済の活性化、国際性豊かなまちづくりの実現



過去の特別委員会における提言

①「通過型」中心の観光客を「滞在型」に移行させるための仕組みづくりが必要である (H22都心部活性化)

②横浜の目玉となる新たな集客資源の創造 集客力があり、横浜の都市の魅力を高めるイベント等の開催について、新しい発想で検討する必要がある (H22都心部活性化)

③世界最大級のコンベンション施設とこれまでの国際会議の開催実績を生かし (中略) 単に会議を誘致するだけにとどまらず、横浜ならではの独自性を最大限に発揮し、近隣都市との広域観光連携も含め、戦略性を持って推進していく必要がある (H22都心部活性化)

④コンベンション等の経済波及効果について、プラス面・マイナス面を十分調査・分析し、これを市民に公表した上で、横浜がより多く潤う取り組みを推進すること (H21国際文化都市)

⑤横浜は、日本の近代文化の発祥の地であり、開港都市として、また多文化共生都市として、歴史や文化芸術が集積しており、横浜の強みであるこれらの地域資源を十分に活用した都市の活性化を図る必要がある。(中略) 文化芸術都市として、質の高い豊かな都市空間の形成を図る取り組みが必要である (H22都心部活性化)

⑥より効果的なシティプロモーションを実施するためには、(行政の中に) 横断的・総合的に事業調整を推進する組織を設置し、あわせて、戦略性のある魅力ある都市づくり施策をこれまで以上にスピーディに計画・推進していくことが重要である (H22都心部活性化)

⑦国際協力、平和の推進、観光・コンベンション、文化芸術に関する施策が一体的かつ明確な政策理念のもとに最大限の効果を発揮するよう、組織横断的プロジェクトを設置し、検討すること (H21国際文化都市)

アジアからの誘客

MICEの誘致

文化芸術創造都市

総合調整とシティプロモーション

＜観光・創造都市戦略を進める取り組み＞ (横浜市中期4か年計画)